
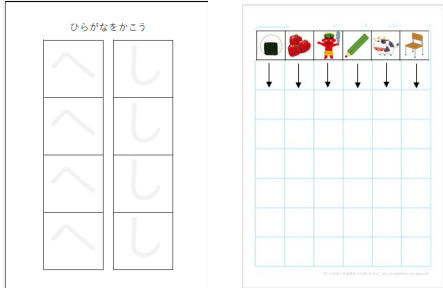


自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり、書いたりすることの指導 ～絵本の読み聞かせと書くことを組み合わせた事例～			
学部・教科	小学部・国語科	事例コード	2203
学習グループの実態	<ul style="list-style-type: none"> 小学部第1学年 毎日繰り返し見たり聞いたりしてきたことで、平仮名で表記された活動カードなどを読むことができたり、それが何を表しているのかが分かったりしている。 書字に関して、手本を見ながら視写することができる児童、なぞり書きができる児童、直線や曲線が書ける児童など実態は様々である。筆記用具を持つことに苦手意識のある児童もいる。 		
単元(題材)名	『かいてみよう～もののなまえ～』		
学習指導要領の内容	国語科／小学部2段階 [知識・技能] イ (ウ) ④ [思考力、判断力、表現力等] B書くことーイ		
単元(題材)の目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けることができる。【[知] イ (ウ) ④】	自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり、書いたりすることができる。【[思] B イ】	言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする。 【小2段階目標ウ】
単元(題材)の計画	総時数10時間 ① 絵本の読み聞かせ「あいうえおえほん」 <ul style="list-style-type: none"> 絵本のイラストを見てそのものの名前を答えたり、平仮名を見て読んだりする。 ② かいてみよう～身の回りにあるもの、人～ <ul style="list-style-type: none"> 絵本に出てきたものの名前や、身の回りにあるもの、人などのイラストや写真を見て、平仮名で書いたりなぞったりして表す。 ※ 活動の流れを固定して行う。児童の実態に応じて、書く場面は、なぞる、視写する、シールを貼る(書くことに苦手意識や抵抗感のある児童への配慮)など、内容を発展させるようにする。		
指導の実際	<ul style="list-style-type: none"> 児童の興味関心が高い絵本「あいうえおえほん」の読み聞かせを導入に取り入れ、身近にある果物や野菜、動物など、児童が知っているものの名前から学習を始めた。 身近にあるものがたくさん出てくるため、「見たことあるよ。」「(実物を指差しながら)これだ。」などと言葉と実物とを結び付けたり、生活経験の中から想起したりしながら学習に取り組むことができた。 書く場面では、絵本に出てきたものや、身の回りにあるもの、友だちや教師の名前などを書き記す学習を行った。ホワイトボード上で教師が書く様子を見せることで、書き順や字形を意識して書こうとしたり、始点を記すことでなぞり書きに取り組めたりと、それぞれの変容が見られた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>あいうえおえほん (戸田デザイン研究室)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>自作のプリント</p> </div> </div>		